

各 位

平成 23 年 1 月 14 日

株式会社 みなと銀行

「兵庫県内中小企業の景況調査」の実施について

株式会社 みなと銀行（頭取 尾野俊二）は、兵庫県内のお取引先中小企業のご協力を得て、県内中小企業の景況調査をはじめて実施しましたので、調査結果をお知らせします。

本調査は、みなと銀行の県下全域にわたる支店ネットワークを活用し、小規模企業を含む地元中小企業の皆さまが実際に肌で感じておられる景況感などを幅広く把握し、地域金融機関としてお役に立つ情報を発信していくことを目指して実施したものです。

今回は第一回目の調査ですが、今後、内容、手法などの改善を図りながら四半期毎に実施し、地域の皆さまのご意見、ご判断をより反映した調査となるよう努めてまいります。

景況調査の概要

実施時期	平成 22 年 11 月中旬
調査対象	兵庫県内に本社を置くみなと銀行のお取引先中小企業 対象先：1,300 先、うち有効回答：857 先 （有効回答率 65.9%）
実施要領	原則、お客さまからの直接聞き取り
質問事項	景況感、売上、経常利益などに関する判断 D I 等

調査結果の概要と詳細は、別紙の通りです。ご参照下さい。

以上

本件に関するお問い合わせ先
企画部 調査広報室 中島 TEL:078-333-3247

兵庫県内中小企業の景況調査

（2010年10月～12月期）

調査結果

上場企業のほぼ2社に1社が実質無借金企業（10年9月末、日本経済新聞調べ）となったのに対し、中小企業の資金繰りは総じて厳しい状況が続いているという実態が浮き彫りになった。

売上高は、全体的に販売数量より販売単価の下落が大きく影響し、今後の景況も厳しいと判断している。

・医療・保健衛生業などは売上・利益とも増加し、雇用の不足感が強いという回答であった。また、円高の影響はないと答えた企業が全体の6割超であったが、販売単価の引き下げ等間接的には円高デフレの影響を受けている結果となった。

回答企業の属性

業種	社数	構成比(%)
製造業	285	33.3
建設業	125	14.6
卸売業	150	17.5
小売業	49	5.7
不動産業	56	6.5
運輸業	38	4.4
飲食業	9	1.1
医療・保健衛生	31	3.6
サービス業	65	7.6
その他	40	4.7
小計	563	65.7
無回答	9	1.1
合計	857	100.0

従業員数	社数	構成比(%)	
小規模企業	5名以下	56	6.5
	6～10名	88	10.3
小計	144	16.8	
中小企業	11～20名	182	21.2
	21～50名	250	29.2
	51～100名	129	15.1
小計	561	65.5	
中堅企業	101～200名	88	10.3
	201名以上	60	7.0
小計	148	17.3	
無回答	4	0.5	
合計	857	100.0	

DI (Diffusion Index)

例) 景況判断DI = 「良い」と回答した企業の割合

「悪い」と回答した企業の割合

調査 びなと銀行
集計 ひよっこ経済研究所
分析

調査方法等

- ・調査時点
- ・調査対象
- ・調査方法
- ・依頼先数
- ・有効回答数

1 景況判断

直近の景況判断は悪い

兵庫県内の中小企業に現時点での景況感を尋ねたところ、全産業の景況判断DIは 34.5 となり、景況が悪いと感じている企業が多かった。業種別には、製造業が 26.6、非製造業が 37.6 となっており、製造業に比べて非製造業に景況が悪いと感じている企業が多い。今後3カ月の見通しは、全産業では直近3カ月比 2.3 ポイント悪化の 36.8 と、さらに厳しい状況が続くと予想する企業が多い。

1. 景況判断

項目	最近3ヵ月 (2010年 10～12月)	今後3ヵ月 (2011年 1～3月)	変化幅 (ポイント)
全産業	34.5	36.8	2.3
小規模企業	37.8	34.3	3.5
中小企業	35.3	38.9	3.6
中堅企業	26.9	30.6	3.7
製造業	26.6	29.7	3.1
小規模企業	15.0	5.3	9.7
中小企業	28.1	33.3	5.2
中堅企業	24.6	26.7	2.1
非製造業	37.6	39.5	1.9
小規模企業	41.3	38.5	2.8
中小企業	38.6	41.4	2.8
中堅企業	27.7	32.5	4.8

2 売上高判断

販売単価の下落が響き売上高が減少

直近の全産業の売上高判断DIは 11.6 であった。その内訳は、販売数量が 7.3、販売単価が 28.9 となっており、販売単価の下落を主に売上高が減少した企業が多いことが窺える。業種別には、製造業が 2.8 に対し、非製造業が 17.9 となっており、非製造業に直近の売上高が減少したとする企業が多い。今後3カ月の見通しは、全産業では直近3カ月比 0.2 ポイント悪化の 11.8 と、ほぼ横ばいである。

2. 売上高判断 (前年同期比)

項目	最近3ヵ月 (2010年 10～12月)	今後3ヵ月 (2011年 1～3月)	変化幅 (ポイント)
全産業	11.6	11.8	0.2
販売数量	7.3	8.8	1.5
小規模企業	15.8	8.7	7.1
中小企業	5.1	9.1	4.0
中堅企業	5.0	6.4	1.4
販売単価	28.9	25.4	3.5
小規模企業	36.7	27.0	9.7
中小企業	27.3	26.3	1.0
中堅企業	27.1	20.7	6.4
製造業	2.8	4.7	7.5
販売数量	7.1	1.4	8.5
販売単価	23.3	22.9	0.4
非製造業	17.9	14.5	3.4
販売数量	13.8	11.7	2.1
販売単価	31.6	26.9	4.7

2010年11月中旬
兵庫県内に本社を置くびなと銀行の取引先中小企業
原則、訪問（聞き取り）によるアンケート調査
1300社
857社（有効回答率 65.9%）

3 経常利益判断 非製造業が苦戦

『全産業』の経常利益判断DIは 9.8となっており、減益企業が増益企業を上回る。業種別には製造業が 1.1、非製造業が 13.6と非製造業に減益企業が多い

4 在庫判断 適正企業が大半、一部に過剰感

全体的には「適正」とする企業が多く、『全産業』の在庫判断DIは 4.4と一部に過剰感がある。業種別には、製造業が 10.0と過剰感のある企業が幾分多い

5 資金繰り判断 規模の小さい企業ほど苦戦

『全産業』の資金繰り判断DIは 5.3である。規模別には、『小規模企業』が 17.4、『中小企業』が 6.2と、規模の小さい企業に苦しいとする先が多い

6 雇用判断 適正企業が大半、一部に不足先

全体的には「適正」とする企業が多く、『全産業』の雇用判断DIは 1.8と一部に「不足」先がある。業種別には、『製造業』が 4.9と若干の過剰感があるのに対して、『非製造業』は 5.2と逆に不足感がある

項目	3. 経常利益判断			4. 在庫判断			5. 資金繰り判断			6. 雇用判断		
	最近3ヵ月 〔2010年 10～12月〕	今後3ヵ月 〔2011年 1～3月〕	変化幅 (ポイント)	最近3ヵ月 〔2010年 10～12月〕	今後3ヵ月 〔2011年 1～3月〕	変化幅 (ポイント)	最近3ヵ月 〔2010年 10～12月〕	今後3ヵ月 〔2011年 1～3月〕	変化幅 (ポイント)	最近3ヵ月 〔2010年 10～12月〕	今後3ヵ月 〔2011年 1～3月〕	変化幅 (ポイント)
	<small>(前年同期比) 「増加」-「減少」 「不足」-「過剰」 「楽である」-「苦しい」 「不足」-「過剰」</small>											
全産業	9.8	16.5	6.7	4.4	2.3	2.1	5.3	7.0	1.7	1.8	3.3	1.5
小規模企業	8.4	13.5	5.1	1.6	4.0	2.4	17.4	18.3	0.9	6.3	7.7	1.4
中小企業	11.8	19.6	7.8	6.0	4.1	1.9	6.2	7.9	1.7	1.1	0.7	1.8
中堅企業	2.1	7.5	5.4	2.2	1.5	0.7	10.8	7.5	3.3	7.4	8.2	0.8
製造業	1.1	14.2	13.1	10.0	7.6	2.4	2.5	3.9	1.4	4.9	5.7	0.8
小規模企業	35.0	16.7	18.3	0.0	0.0	0.0	30.0	27.8	2.2	15.0	16.7	1.7
中小企業	2.5	16.6	14.1	11.7	9.3	2.4	3.0	5.0	2.0	7.0	7.5	0.5
中堅企業	6.5	16.1	9.6	8.1	4.8	3.3	8.1	6.5	1.6	4.8	6.5	1.7
非製造業	13.6	16.8	3.2	0.6	0.8	1.4	6.2	8.2	2.0	5.2	8.0	2.8
小規模企業	14.9	17.4	2.5	2.9	5.8	2.9	14.8	16.4	1.6	4.9	6.6	1.7
中小企業	16.6	20.6	4.0	2.5	1.0	1.5	7.9	9.3	1.4	2.5	5.6	3.1
中堅企業	1.2	0.0	1.2	2.8	1.4	1.4	12.9	8.3	4.6	16.5	20.2	3.7

7 円高の影響 製造業に「マイナス」先が多い

円高の影響は、『全産業』では「特になし」とする企業が 65.1%と最も多く、以下、「マイナス影響」が 27.1%、プラス影響が 7.0%であった。業種別には「マイナス影響」の企業は製造業では 42.5%と多いのに対し、『非製造業』は 19.0%に止まる。

項目	マイナス影響	特になし	プラス影響	無回答
全産業	27.1	65.1	7.0	0.8
小規模企業	22.2	72.2	4.9	0.7
中小企業	27.3	64.7	7.1	0.9
中堅企業	29.7	60.8	8.8	0.7
製造業	42.5	48.4	8.8	0.4
小規模企業	25.0	65.0	10.0	0.0
中小企業	42.8	48.8	8.0	0.5
中堅企業	46.8	41.9	11.3	0.0
非製造業	19.0	73.7	6.2	1.1
小規模企業	21.3	73.8	4.1	0.8
中小企業	18.5	73.6	6.7	1.1
中堅企業	17.6	74.1	7.1	1.2

トピックス 初詣の予定

初詣の予定を尋ねたところ、行くが 67.8%、行かないが 28.8%。参拝予定先(複数回答)は、「生田神社」が 68件で最も多く、以下、「湊川神社」38件、「伏見稲荷大社」37件と続く。その他、「近所の神社」も多い。

	行く	行かない	無回答	合計
全体	67.8	28.8	3.4	100.0

順位	社寺名	所在地	件数
1位	生田神社	神戸市中央区	68
2位	湊川神社	神戸市中央区	38
3位	伏見稲荷大社	京都市伏見区	37
4位	伊弉諾神宮	淡路市	20
5位	長田神社	神戸市長田区	19

兵庫県内中小企業の景況調査

(2010年10～12月期)

〔目 次〕

. 調査方法等	1
. 調査結果の概要	2
. 個別項目の動向	
1. 景況判断	3
2. 売上高判断	4
3. 経常利益判断	5
4. 在庫判断	6
5. 資金繰り判断	7
6. 雇用判断	8
7. 円高の影響	9
8. トピックス	10
. 【参考】景況判断の内訳明細	11

本調査に関する問い合わせ先
みなと銀行 法人業務部 (担当:戸田)
TEL (078)333 - 3283

調査方法等

調査時点	2010年11月中旬
調査対象	兵庫県内に本社を置くみなと銀行の取引先中小企業
調査方法	原則、訪問(聞き取り)によるアンケート調査
依頼先数	1300社
有効回答数	857社(有効回答率65.9%)
集計・分析担当	財団法人ひょうご経済研究所

(回答企業の属性)

【所在地】

	社数	構成比(%)
神戸地域	333	38.9
阪神地域	72	8.4
播磨地域	343	40.0
丹波・但馬地域	29	3.4
淡路地域	44	5.1
無回答	36	4.2
合計	857	100.0

神戸地域・・・神戸市
 阪神地域・・・尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、川辺郡(猪名川町)
 播磨地域・・・姫路市、明石市、相生市、加古川市、赤穂市、西脇市、三木市、高砂市、小野市、加西市、宍粟市、加東市、たつの市、多可郡(多可町)、加古郡(稲美町、播磨町)、揖保郡(太子町)、赤穂郡(上郡町)、神崎郡(市川町、福崎町、神河町)、佐用郡(佐用町)
 丹波・但馬地域・・・篠山市、丹波市、豊岡市、養父市、朝来市、美方郡(香美町、新温泉町)
 淡路地域・・・洲本市、南あわじ市、淡路市

【業種】

	社数	構成比(%)	
製造業	285	33.3	
非製造業	建設業	125	14.6
	卸売業	150	17.5
	小売業	49	5.7
	不動産業	56	6.5
	運輸業	38	4.4
	飲食業	9	1.1
	医療・保険衛生	31	3.6
	サービス業	65	7.6
	その他	40	4.7
	小計	563	65.7
無回答	9	1.1	
合計	857	100.0	

【資本金】

	社数	構成比(%)
500万円以下	34	4.0
500万円超～1千万円以下	213	24.9
1千万円超～2千万円以下	194	22.6
2千万円超～3千万円以下	94	11.0
3千万円超～5千万円以下	149	17.4
5千万円超～1億円以下	121	14.1
1億円超	40	4.7
無回答	12	1.4
合計	857	100.0

【従業員数】

	社数	構成比(%)	
小規模企業	5名以下	56	6.5
	6～10名	88	10.3
	小計	144	16.8
中小企業	11～20名	182	21.2
	21～50名	250	29.2
	51～100名	129	15.1
	小計	561	65.5
中堅企業	101～200名	88	10.3
	201名以上	60	7.0
	小計	148	17.3
無回答	4	0.5	
合計	857	100.0	

(各種判断DIについて)

DI (Diffusion Index)

【例】景況判断DI = 「良い」と回答した企業の割合(%) - 「悪い」と回答した企業の割合(%)

・調査結果の概要

直近の景況判断DIは 34.5と悪い

先行きも 36.8と若干の悪化を見込む

項 目	最近3ヵ月 〔2010年10～12月〕	今後3ヵ月 〔2011年1～3月〕
景況判断 「良い」 - 「悪い」	<ul style="list-style-type: none"> ・全産業では 34.5と悪い。 ・製造業が 26.6、非製造業が 37.6 となっており、非製造業の方が悪い。 ・規模別には、規模の小さい企業ほど悪い傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全産業では 36.8 と幾分悪化を見込む。 ・製造業、非製造業ともに幾分悪化を見込む。 ・規模別には、小規模企業は改善、中小企業と中堅企業は悪化を見込む。
売上高判断 (前年同期比) 「増加」 - 「減少」	<ul style="list-style-type: none"> ・販売単価が下落したとする企業が多いこと(28.9)を受け、全産業の売上高は 11.6と「減少」が「増加」を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も販売単価の下落を予想する企業が多く(25.4)、全産業の売上高は 11.8と横ばいを見込む。
経常利益判断 (前年同期比) 「増加」 - 「減少」	<ul style="list-style-type: none"> ・全産業では 9.8 と減益企業が幾分多い。 ・製造業が 1.1、非製造業が 13.6 となっており、非製造業が苦戦。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の見通しも 16.5 と減益を見込む企業が幾分増える。 ・製造業が 14.2、非製造業が 16.8 となっており、製造業で悪化を見込む企業が多い。
在庫判断 「不足」 - 「過剰」	<ul style="list-style-type: none"> ・「適正」であるとしている企業が多く、全産業では 4.4と一部に過剰感がある。 ・製造業は 10.0と「過剰」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも「適正」とする企業が多く、全産業では 2.3とわずかに改善を見込む。 ・製造業は 7.6と若干の改善を見込む。
資金繰り判断 「楽である」 - 「苦しい」	<ul style="list-style-type: none"> ・全産業では 5.3 と「苦しい」とする企業が幾分多い。 ・規模別には、小規模企業が 17.4、中小企業が 6.2 であるなど、規模が小さい先ほど「苦しい」とする企業が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全産業では 7.0 と「苦しい」とする企業がわずかに増加。 ・引き続き規模が小さい先ほど「苦しい」とする企業が多い。
雇用判断 「不足」 - 「過剰」	<ul style="list-style-type: none"> ・「適正」であるとしている企業が多く、全産業では 1.8と一部に「不足」先がある。 ・製造業が 4.9 と「過剰」、非製造業が 5.2と「不足」である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも「適正」とする企業が多く、全産業では 3.3とわずかに「不足」先が増加。 ・製造業が 5.7とほぼ横ばいを見込むのに対し、非製造業は 8.0と「不足」先が幾分増加する。
円高の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・全産業では「マイナス影響」が 27.1%、「プラス影響」が 7.0%、「特にない」が 65.1%。 ・「マイナス影響」は、製造業が 42.5%、非製造業が 19.0%と製造業に多い。 	

・個別項目の動向

1. 景況判断

「良い」 - 「悪い」

項目	最近3ヵ月 (2010年 10~12月)	今後3ヵ月 (2011年 1~3月)	変化幅 (ポイント)
全産業	34.5	36.8	2.3
小規模企業	37.8	34.3	3.5
中小企業	35.3	38.9	3.6
中堅企業	26.9	30.6	3.7
製造業	26.6	29.7	3.1
小規模企業	15.0	5.3	9.7
中小企業	28.1	33.3	5.2
中堅企業	24.6	26.7	2.1
非製造業	37.6	39.5	1.9
小規模企業	41.3	38.5	2.8
中小企業	38.6	41.4	2.8
中堅企業	27.7	32.5	4.8

【参考】 「良い」 - 「悪い」

項目	最近3ヵ月 (2010年 10~12月)	今後3ヵ月 (2011年 1~3月)	変化幅 (ポイント)	
地域別	神戸地域	38.7	40.3	1.6
	阪神地域	40.0	47.1	7.1
	播磨地域	32.2	31.9	0.3
	丹波・但馬地域	10.7	25.0	14.3
	淡路地域	31.8	43.2	11.4
業種別	製造業	26.6	29.7	3.1
	建設業	39.5	37.4	2.1
	卸売業	42.7	45.3	2.6
	小売業	49.0	42.9	6.1
	不動産業	36.4	37.5	1.1
	運輸業	13.5	29.7	16.2
	飲食業	55.6	66.7	11.1
	医療・保険衛生	3.3	3.4	0.1
	サービス業	46.9	48.4	1.5
	その他	28.9	36.8	7.9

(1) 直近3ヵ月(2010年10月~12月)

兵庫県内の中小企業に現時点での景況感を尋ねたところ、『全産業』の景況判断DI(「良い」 - 「悪い」)は 34.5 となり、景気が悪いと感じている企業が多かった。

業種別には、『製造業』が 26.6、『非製造業』が 37.6 となっており、『製造業』に比べて『非製造業』に景気が悪いと感じている企業が多い。

規模別には、『小規模企業』(従業員数10名以下)が 37.8、『中小企業』(同11~100名)が 35.3、『中堅企業』(同101名以上)が 26.9 となっており、規模が小さい企業ほど景気が悪いと感じている。

ただし、さらに詳しく業種別・規模別の状況を見ると、『非製造業』で規模が小さい企業ほど景気が悪いと感じているのに対し、『製造業』は『小規模企業』が 15.0、『中小企業』が 28.1、『中堅企業』が 24.6 と景況感にばらつきがある。

(2) 今後3ヵ月(2011年1月~3月)

今後3ヵ月の見通しについては、『全産業』では直近3ヵ月比2.3ポイント悪化の 36.8と、さらに厳しい状況が続くと予想する企業が多い。

業種別には、『製造業』が同3.1ポイント悪化の 29.7、『非製造業』が同1.9ポイント悪化の 39.5 となっている。

規模別には、『中小企業』と『中堅企業』が悪化を予想しているのに対し、『小規模企業』は3.5ポイント改善の 34.3 となっている。中でも『製造業』中の『小規模企業』は9.7ポイント改善の 5.3 と他に比べて明るい見通しをしている企業の割合が高い。

2. 売上高判断

(前年同月比) 「増加」-「減少」、「上昇」-「下落」

項目	最近3ヵ月 (2010年 10~12月)	今後3ヵ月 (2011年 1~3月)	変化幅 (ポイント)
全産業	11.6	11.8	0.2
販売数量	7.3	8.8	1.5
小規模企業	15.8	8.7	7.1
中小企業	5.1	9.1	4.0
中堅企業	5.0	6.4	1.4
販売単価	28.9	25.4	3.5
小規模企業	36.7	27.0	9.7
中小企業	27.3	26.3	1.0
中堅企業	27.1	20.7	6.4
製造業	2.8	4.7	7.5
販売数量	7.1	1.4	8.5
販売単価	23.3	22.9	0.4
非製造業	17.9	14.5	3.4
販売数量	13.8	11.7	2.1
販売単価	31.6	26.9	4.7

【参考】 「増加」-「減少」、「上昇」-「下落」

項目	最近3ヵ月 (2010年 10~12月)	今後3ヵ月 (2011年 1~3月)	変化幅 (ポイント)	
地域別	神戸地域	15.8	13.3	2.5
	阪神地域	12.7	7.1	5.6
	播磨地域	9.9	10.0	0.1
	丹波・但馬地域	13.8	10.7	24.5
	淡路地域	18.2	27.3	9.1
業種別	製造業	2.8	4.7	7.5
	建設業	28.0	24.2	3.8
	卸売業	17.3	14.7	2.6
	小売業	27.1	21.3	5.8
	不動産業	25.0	3.6	21.4
	運輸業	5.4	5.3	10.7
	飲食業	11.1	22.2	11.1
	医療・保険衛生	26.7	26.7	0.0
	サービス業	30.8	23.1	7.7
	その他	2.6	15.8	13.2

(1) 直近3ヵ月(2010年10月~12月)

『全産業』の売上高判断DI(「増加」-「減少」)は 11.6 であった。売上高の内訳を数量と単価に分けて質問したところ、販売数量判断DI(「増加」-「減少」)は 7.3、販売単価判断DI(「上昇」-「下落」)は 28.9 となっており、販売単価の下落を主因に売上高が減少した企業が多いことが窺える。

業種別の売上高DIは、『製造業』が 2.8 に対し、『非製造業』が 17.9 となっており、『非製造業』に直近の売上高が減少したとする企業が多い。それぞれの内訳をみると、『製造業』は、販売単価が下落したとする企業が多い(DIは 23.3)一方で、販売数量は増加したとする企業もあり(同 7.1)、全体ではプラスのDIとなっている。『非製造業』は、販売数量が減少した企業(同 13.8)と、販売単価が下落した企業(同 31.6)がいずれも多数あり、全体としてマイナスのDIとなっている。

(2) 今後3ヵ月(2011年1月~3月)

今後3ヵ月の見通しについては、『全産業』の売上高DIは、直近3ヵ月比 0.2 ポイント悪化の 11.8 と、ほぼ横ばい予想となっている。その内訳を見ると、販売単価DIが同 3.5 ポイント改善の 25.4 と幾分改善を見込むものの、販売数量DIが 1.5 ポイント悪化の 8.8 との予想であり、厳しい状況が続く。

業種別の売上高判断DIは、『製造業』が同 7.5 ポイント悪化の 4.7、『非製造業』が同 3.4 ポイント改善の 14.5 と、変化予想の方向が異なっている。中でも『製造業』の販売数量判断DIは 8.5 ポイント悪化の 1.4 と悪化幅が他に比べて大きい。2011年1月1日以降、家電エコポイント制度の対象範囲が狭まる予定であるなど、政府の消費刺激策の縮小による落ち込みを懸念する向きが少なからずあるものと思われる。

3. 経常利益判断

(前年同月比)		「増加」 - 「減少」	
項目	最近3ヵ月 (2010年 10~12月)	今後3ヵ月 (2011年 1~3月)	変化幅 (ポイント)
全産業	9.8	16.5	6.7
小規模企業	8.4	13.5	5.1
中小企業	11.8	19.6	7.8
中堅企業	2.1	7.5	5.4
製造業	1.1	14.2	13.1
小規模企業	35.0	16.7	18.3
中小企業	2.5	16.6	14.1
中堅企業	6.5	16.1	9.6
非製造業	13.6	16.8	3.2
小規模企業	14.9	17.4	2.5
中小企業	16.6	20.6	4.0
中堅企業	1.2	0.0	1.2

【参考】		「増加」 - 「減少」		
項目	最近3ヵ月 (2010年 10~12月)	今後3ヵ月 (2011年 1~3月)	変化幅 (ポイント)	
地域別	神戸地域	8.8	14.5	5.7
	阪神地域	4.2	14.1	9.9
	播磨地域	13.2	17.4	4.2
	丹波・但馬地域	17.2	13.8	31.0
	淡路地域	25.6	35.7	10.1
業種別	製造業	1.1	14.2	13.1
	建設業	31.5	33.9	2.4
	卸売業	16.1	17.4	1.3
	小売業	14.3	16.7	2.4
	不動産業	7.1	10.7	3.6
	運輸業	29.7	2.7	32.4
	飲食業	0.0	11.1	11.1
	医療・保険衛生	6.7	0.0	6.7
	サービス業	24.6	13.8	10.8
	その他	2.5	7.5	10.0

(1) 直近3ヵ月(2010年10月~12月)

『全産業』の経常利益判断DI(「増加」 - 「減少」)は 9.8 となっており、減益企業が増益企業を上回る。

業種別には、『製造業』が 1.1、『非製造業』が 13.6と、『非製造業』に減益企業が多くなっている。

規模別には、『小規模企業』が 8.4、『中小企業』が 11.8、『中堅企業』が 2.1となっている。中でも『製造業』中の『小規模企業』が 35.0と他に比べて好調な企業が多い。

(2) 今後3ヵ月(2011年1月~3月)

今後3ヵ月の見通しについては、『全産業』では直近3ヵ月比 6.7ポイント悪化の 16.5と、減益を予想する企業が増加する。

業種別には、『製造業』が同 13.1ポイント悪化の 14.2、『非製造業』が同 3.2ポイント悪化の 16.8となっており、『製造業』において減益を予想する企業が多い。

規模別には、『小規模企業』『中小企業』『中堅企業』のいずれも悪化予想となっている。

4. 在庫判断

「不足」 - 「過剰」

項目	最近3ヵ月 〔2010年 10～12月〕	今後3ヵ月 〔2011年 1～3月〕	変化幅 (ポイント)
全産業	4.4	2.3	2.1
小規模企業	1.6	4.0	2.4
中小企業	6.0	4.1	1.9
中堅企業	2.2	1.5	0.7
製造業	10.0	7.6	2.4
小規模企業	0.0	0.0	0.0
中小企業	11.7	9.3	2.4
中堅企業	8.1	4.8	3.3
非製造業	0.6	0.8	1.4
小規模企業	2.9	5.8	2.9
中小企業	2.5	1.0	1.5
中堅企業	2.8	1.4	1.4

【参考】 「不足」 - 「過剰」

項目		最近3ヵ月 〔2010年 10～12月〕	今後3ヵ月 〔2011年 1～3月〕	変化幅 (ポイント)
地域別	神戸地域	2.7	1.7	1.0
	阪神地域	0.0	6.2	6.2
	播磨地域	6.7	3.7	3.0
	丹波・但馬地域	3.7	7.4	3.7
	淡路地域	0.0	5.9	5.9
業種別	製造業	10.0	7.6	2.4
	建設業	2.9	4.9	2.0
	卸売業	9.5	6.1	3.4
	小売業	4.1	2.0	2.1
	不動産業	11.8	11.8	0.0

(1) 直近3ヵ月(2010年10月～12月)

全体的には在庫は「適正」であるとする企業が多く、『全産業』の在庫判断DI(「不足」 - 「過剰」)は4.4と一部に過剰感がある。

業種別には、『製造業』において10.0となっており、在庫が過剰となっている企業が幾分多く見られる。その規模別の内訳を見ると、『中小企業』の11.7と『中堅企業』の8.1が過剰である。

(2) 今後3ヵ月(2011年1月～3月)

今後3ヵ月の見通しについては、『全産業』では直近3ヵ月比2.1ポイント改善の2.3と、過剰在庫を抱える企業が減少すると見込みである。

業種別には、『製造業』が直近3ヵ月比2.4ポイント改善の7.6となっており、直近では「過剰」企業が見られた『中小企業』と『中堅企業』のいずれも、改善する先が多くなっている。

5. 資金繰り判断

「楽である」 - 「苦しい」

項目	最近3ヵ月 (2010年 10~12月)	今後3ヵ月 (2011年 1~3月)	変化幅 (ポイント)
全産業	5.3	7.0	1.7
小規模企業	17.4	18.3	0.9
中小企業	6.2	7.9	1.7
中堅企業	10.8	7.5	3.3
製造業	2.5	3.9	1.4
小規模企業	30.0	27.8	2.2
中小企業	3.0	5.0	2.0
中堅企業	8.1	6.5	1.6
非製造業	6.2	8.2	2.0
小規模企業	14.8	16.4	1.6
中小企業	7.9	9.3	1.4
中堅企業	12.9	8.3	4.6

【参考】

「楽である」 - 「苦しい」

項目	最近3ヵ月 (2010年 10~12月)	今後3ヵ月 (2011年 1~3月)	変化幅 (ポイント)	
地域別	神戸地域	0.6	2.4	1.8
	阪神地域	9.7	8.3	1.4
	播磨地域	6.1	8.5	2.4
	丹波・但馬地域	27.6	20.7	6.9
	淡路地域	11.4	15.9	4.5
業種別	製造業	2.5	3.9	1.4
	建設業	8.8	10.4	1.6
	卸売業	4.7	5.4	0.7
	小売業	2.0	2.0	0.0
	不動産業	5.4	8.9	3.5
	運輸業	23.7	18.9	4.8
	飲食業	11.1	22.2	11.1
	医療・保険衛生	9.7	6.5	3.2
	サービス業	3.1	7.7	4.6
	その他	10.0	17.5	7.5

(1) 直近3ヵ月(2010年10月~12月)

『全産業』の資金繰り判断DI(「楽である」 - 「苦しい」)は、5.3となっており、資金繰りが「苦しい」という企業が幾分多い。

業種別には、『製造業』が2.5、『非製造業』が6.2と、いずれも、「苦しい」という企業が少数あり、両者に大きな差は見られない。

規模別には、『小規模企業』が17.4、『中小企業』が6.2であるなど、規模の小さい企業ほど資金繰りが「苦しい」とする企業が多い。

(2) 今後3ヵ月(2011年1月~3月)

今後3ヵ月の見通しについては、『全産業』では直近3ヵ月比1.7ポイント悪化の7.0と、今後、資金繰りが「苦しく」と予想する企業が幾分増える。

業種別には、『製造業』が同1.4ポイント悪化の3.9、『非製造業』が同2.0ポイント悪化の8.2となっている。

規模別には、『小規模企業』『中小企業』『中堅企業』のいずれも少し悪化するとの予想である。

6. 雇用判断

「不足」 - 「過剰」

項目	最近3ヵ月 (2010年 10~12月)	今後3ヵ月 (2011年 1~3月)	変化幅 (ポイント)
全産業	1.8	3.3	1.5
小規模企業	6.3	7.7	1.4
中小企業	1.1	0.7	1.8
中堅企業	7.4	8.2	0.8
製造業	4.9	5.7	0.8
小規模企業	15.0	16.7	1.7
中小企業	7.0	7.5	0.5
中堅企業	4.8	6.5	1.7
非製造業	5.2	8.0	2.8
小規模企業	4.9	6.6	1.7
中小企業	2.5	5.6	3.1
中堅企業	16.5	20.2	3.7

【参考】

「不足」 - 「過剰」

項目	最近3ヵ月 (2010年 10~12月)	今後3ヵ月 (2011年 1~3月)	変化幅 (ポイント)		
地域別	神戸地域	2.7	2.7	0.0	
	阪神地域	2.8	12.5	9.7	
	播磨地域	0.0	2.3	2.3	
	丹波・但馬地域	0.0	3.4	3.4	
	淡路地域	4.5	2.3	6.8	
業種別	製造業	4.9	5.7	0.8	
	非製造業	建設業	12.0	14.4	2.4
		卸売業	8.7	8.7	0.0
		小売業	2.1	6.1	8.2
		不動産業	1.8	5.4	3.6
		運輸業	7.9	13.5	5.6
		飲食業	44.4	44.4	0.0
		医療・保険衛生	29.0	35.5	6.5
		サービス業	9.2	14.1	4.9
		その他	12.5	12.5	0.0

(1) 直近3ヵ月(2010年10月~12月)

全体的には雇用は「適正」であるとする企業が多く、『全産業』の雇用判断DI(「不足」 - 「過剰」)は、1.8と一部に「不足」先がある。

業種別には、『製造業』が 4.9と若干の過剰感があるのに対し、『非製造業』は5.2と逆に不足感がある。

規模別に見ると、不足感があるのが『小規模企業』(DIは6.3)と『中堅企業』(同7.4)で、過剰感があるのが『中小企業』(同1.1)である。

(2) 今後3ヵ月(2011年1月~3月)

今後3ヵ月の見通しについては、『全産業』では3.3と、今後、「不足」と予想する企業が1.5ポイント増加する。

業種別には、『製造業』が 5.7と「過剰」を予想する企業が0.8ポイント増加するのに対し、『非製造業』は8.0と逆に「不足」を予想する企業が2.8ポイント増加する。

7. 円高の影響

(%)

項目	マイナス影響	特にない	プラス影響	無回答
全産業	27.1	65.1	7.0	0.8
小規模企業	22.2	72.2	4.9	0.7
中小企業	27.3	64.7	7.1	0.9
中堅企業	29.7	60.8	8.8	0.7
製造業	42.5	48.4	8.8	0.4
小規模企業	25.0	65.0	10.0	0.0
中小企業	42.8	48.8	8.0	0.5
中堅企業	46.8	41.9	11.3	0.0
非製造業	19.0	73.7	6.2	1.1
小規模企業	21.3	73.8	4.1	0.8
中小企業	18.5	73.6	6.7	1.1
中堅企業	17.6	74.1	7.1	1.2

【参考】 (%)

項目	マイナス影響	特にない	プラス影響	無回答		
地域別	神戸地域	21.9	68.5	9.6	0.0	
	阪神地域	26.4	69.4	4.2	0.0	
	播磨地域	34.1	59.8	5.0	1.2	
	丹波・但馬地域	24.1	75.9	0.0	0.0	
	淡路地域	20.5	65.9	9.1	4.5	
業種別	製造業	42.5	48.4	8.8	0.4	
	非製造業	建設業	11.2	86.4	0.8	1.6
		卸売業	34.0	49.3	15.3	1.3
		小売業	18.4	71.4	10.2	0.0
		不動産業	16.1	83.9	0.0	0.0
		運輸業	23.7	71.1	2.6	2.6
		飲食業	11.1	77.8	11.1	0.0
		医療・保険衛生	0.0	100.0	0.0	0.0
		サービス業	6.2	92.3	0.0	1.5
		その他	25.0	65.0	10.0	0.0

円高の影響は、『全産業』では「特にない」とする企業が 65.1%と最も多く、以下、「マイナス影響」が 27.1%と続き、「プラス影響」は 7.0%と少なかった。

業種別に見ると、「マイナス影響」の企業が『製造業』では 42.5%と多いのに対し、『非製造業』は 19.0%に止まる。一方、「特にない」とする企業は、『非製造業』では 73.7%と 7 割を超えるのに対し、『製造業』は 48.4%と 5 割弱となっている。

規模別に見ると、「マイナス影響」と回答した企業において、『製造業』と『非製造業』とではその中身が異なっているのが大きな特徴である。つまり、『製造業』では『小規模企業』が 25.0%であるのに対し、『中堅企業』は 46.8%というように、規模が大きい企業ほど「マイナス影響」幅が大きい。一方、『非製造業』は『小規模企業』の 21.3%に対し、『中堅企業』は 17.6%と、規模が小さい企業ほど「マイナス影響」幅が大きく、『製造業』と逆の結果となっている。

8.トピックス 初詣の予定について

話題のひとつにさせていただければと考え、調査時期にちなんだ質問を盛り込みました。
今回は、初詣の予定についてお聞きしました。

(%)

		行く	行かない	無回答	合計
全 体		67.8	28.8	3.4	100.0
の今 景後 況3 予カ 想月	良い	61.8	38.2	0.0	100.0
	普通	71.4	28.6	0.0	100.0
	悪い	68.4	27.7	3.9	100.0

〔参拝予定の上位5神社〕

(複数回答)

1位	2位	3位	4位	5位
生田神社 (神戸市中央区)	湊川神社 (神戸市中央区)	伏見稲荷大社 (京都市伏見区)	伊弉諾神宮 (淡路市)	長田神社 (神戸市長田区)
68	38	37	20	19

全体では、「行く」が67.8%、「行かない」が28.8%となっており、7割近くが初詣に行く予定があるとの回答でした。

これを今後3ヵ月(2011年1~3月)の景況予想に分けて比べると、景況を「良い」と予想した企業のうち初詣に「行く」という先は61.8%と6割程度であるのに対し、「普通」と予想したうち「行く」のは71.4%、「悪い」は68.4%といずれも7割程度となっており、両者の割合にわずかながら差がありました。「苦しいときの神頼み」ではありませんが、今後の景気について、横ばいもしくは悪化すると予想している企業では、景気が良くなることを願い初詣に行こうと考えておられるのかもしれませんが。

また、参拝予定先の上位5つを見ると(複数回答)、「生田神社」が68件で最も多く、以下、「湊川神社」38件、「伏見稲荷大社」37件、「伊弉諾神宮」20件、「長田神社」19件の順でした。その他、「近所の神社」に行く予定との回答も多数ありました。淡路島にある多くの企業が「伊弉諾神宮」と記入されたように、初詣は近所の神社に参拝される企業経営者が多いようです。

【参考】景況判断内訳明細

景況判断

DI = 「良い」 - 「悪い」

項 目	最近3ヵ月 〔 2010年10～12月〕				今後3ヵ月 〔 2011年1～3月〕			
	良い	普通	悪い	DI	良い	普通	悪い	DI
全産業	9.9	45.7	44.4	34.5	9.0	45.2	45.8	36.8
小規模企業	7.0	48.3	44.8	37.8	12.6	40.6	46.9	34.3
中小企業	11.0	42.7	46.3	35.3	8.7	43.7	47.6	38.9
中堅企業	9.0	55.2	35.9	26.9	6.9	55.6	37.5	30.6
製造業	12.1	49.3	38.7	26.6	11.8	46.6	41.6	29.7
小規模企業	15.0	55.0	30.0	15.0	26.3	42.1	31.6	5.3
中小企業	13.1	45.7	41.2	28.1	11.6	43.4	44.9	33.3
中堅企業	8.2	59.0	32.8	24.6	8.3	56.7	35.0	26.7
非製造業	9.0	44.4	46.6	37.6	7.7	45.0	47.2	39.5
小規模企業	5.8	47.1	47.1	41.3	10.7	40.2	49.2	38.5
中小企業	9.9	41.5	48.6	38.6	7.1	44.3	48.6	41.4
中堅企業	9.6	53.0	37.3	27.7	6.0	55.4	38.6	32.5

【参考】

項 目	最近3ヵ月 〔 2010年10～12月〕				今後3ヵ月 〔 2011年1～3月〕				
	良い	普通	悪い	DI	良い	普通	悪い	DI	
地域別	神戸地域	7.3	46.8	45.9	38.7	8.5	42.7	48.8	40.3
	阪神地域	10.0	40.0	50.0	40.0	4.3	44.3	51.4	47.1
	播磨地域	11.5	44.7	43.8	32.2	10.7	46.6	42.7	31.9
	丹波・但馬地域	17.9	53.6	28.6	10.7	10.7	53.6	35.7	25.0
	淡路地域	9.1	50.0	40.9	31.8	4.5	47.7	47.7	43.2
業種別	製造業	12.1	49.3	38.7	26.6	11.8	46.6	41.6	29.7
	建設業	8.9	42.7	48.4	39.5	10.6	41.5	48.0	37.4
	卸売業	8.0	41.3	50.7	42.7	6.7	41.3	52.0	45.3
	小売業	6.1	38.8	55.1	49.0	6.1	44.9	49.0	42.9
	不動産業	7.3	49.1	43.6	36.4	5.4	51.8	42.9	37.5
	運輸業	16.2	54.1	29.7	13.5	8.1	54.1	37.8	29.7
	飲食業	11.1	22.2	66.7	55.6	11.1	11.1	77.8	66.7
	医療・保険衛生	16.7	63.3	20.0	3.3	17.2	62.1	20.7	3.4
	サービス業	3.1	46.9	50.0	46.9	1.6	48.4	50.0	48.4
その他	15.8	39.5	44.7	28.9	10.5	42.1	47.4	36.8	